

青山フィルハーモニー管弦楽団  
第 37 回外苑祭コンサートプログラムパンフレット別冊

---

発行日：2006 年 9 月 2 日

編集・発行：青山フィルハーモニー管弦楽団

### コンサートのききどころ

今年で 37 回目を迎える外苑祭コンサートで取り上げられるのは、青フィルが得意とする 19 世紀の民族色豊かな音楽です。

一曲目は、ビゼーの『アルルの女』組曲より「ファランドール」です。ヨーロッパ楽壇の中心地でありながらめぼしい作曲家を輩出しなかった 19 世紀半ばのフランスに登場した偉才の情感豊かな音楽をお楽しみ下さい。

続いて演奏されるのは、ロシア国民楽派を主導した「五人組」の一人ボロディンの『イーゴリ公』序曲です。劇的要素に富んだ作品で、叙情性に満ちた旋律が随所に盛り込まれた作品です。

最後に取り上げられるのは、2006 年度の青フィルの年間曲でもある、チャイコフスキーのスラヴ行進曲です。

今からちょうど 130 年前、露土戦争で負傷した将兵の慰問のために作られたスラヴ行進曲は、印象的な旋律を作り出すことに天才的な能力を発揮したチャイコフスキーの魅力が遺憾なく発揮された佳曲です。

いずれも劣らぬ難曲にどのように挑戦するか、青フィルの演奏にご期待下さい。

### 作曲者の横顔

ビゼー ( Georges Bizet , 1838.10.25-1875.6.3 )

#### 【生涯】

フランスの作曲家。9 歳でパリ音楽院に入学し、グノーら当時のフランス音楽界を牽引した音楽家に師事。1857 年にローマ大賞を受賞してローマに留学、1860 年の帰国後は音楽教師などをしながら作曲活動に従事しました。1863 年に最初の本格的な歌劇『真珠採り』を発表したものの不成功に終り、健康を害するなど不遇の時代が続きました。しかし、1872 年に『アルルの女』の付随音楽 27 曲を発表して大成功を収めると、次第に名声を獲得しました。歌劇『カルメン』(1875 年)によってフランス国民歌劇を確立しましたが、初演後まもなく没しました。

#### 【主な作品】

交響曲第 1 番 (1855 年)

歌劇『真珠採り』(1863 年)

劇付随音楽『アルルの女』(1872 年)

4 手用ピアノ曲『子供の遊び』(1875 年)

歌劇『カルメン』(1875 年)

ボロディン (Aleksandr Porfir'evich Borodin, 1833.11.12-1887-2.27)

【生涯】

ロシアの作曲家。「五人組」の一人。9歳で作曲をするなど幼少期から優れた音楽的才能を示しましたが、ペテルブルグ医科大学に進み、1858年には医学博士の学位を取得しました。1859～62年にドイツ、イタリアに留学し、1864年にはペテルブルグ医科大学の教授に就任しました。この頃、バラキレフ、ムソルグスキー、キュイ、リムスキー＝コルサコフと「五人組」を結成し、作曲活動も開始しました。「五人組」のなかでは特にロシアの民族的な英雄や伝説に取材した叙情性の濃い作品を生み出しました。1869年からは歌劇『イーゴリ公』の作曲を始めましたが、1887年に急死したため、リムスキー＝コルサコフらによって完成されました。

【主な作品】

交響曲第1番 (1867年)

歌劇『イーゴリ公』(1869～87年、病没により未完成)

交響詩『中央アジアの草原にて』(1880年)

弦楽四重奏曲第2番 (1881年)

チャイコフスキー (Pyotr Il'ich Chaikovskii, 1840.5.7-1893.11.6)

【生涯】

ロシアの作曲家。ペテルブルグの法律学校を経て法務省に就職しました。しかし、1862年にロシア音楽協会音楽教室に入学、アントン・ルビンシテインらに師事し、ヨーロッパ音楽の伝統的手法を学びました。卒業後はモスクワ音楽院で教鞭をとりながら、国民楽派的な傾向をもつ作品を発表しました。この間、フォン・メック夫人から資金援助を受けてヨーロッパ各地へ旅行したほか、交響曲、協奏曲、管弦楽曲、室内楽曲などを次々と発表しました。ロシア音楽界の第一人者として作曲、指揮、批評と多岐にわたる活躍を示しましたが、1893年にコレラに罹患して急逝しました。

【主な作品】

ピアノ協奏曲第1番 (1875年)

スラヴ行進曲 (1876年)

バレエ『白鳥の湖』(1876年)

交響曲第4番 (1878年)

ヴァイオリン協奏曲 (1878年)

大序曲「1812年」(1880年)

交響曲第5番 (1888年)

バレエ『眠れる森の美女』(1889年)

バレエ『くるみ割り人形』(1892年)

交響曲第6番「悲愴」(1893年)

## 数字で見る外苑祭コンサート

今年で 37 回目を迎えた外苑祭コンサートですが、これまでも様々な作曲家の作品を取り上げてきました。

そこで、今回は外苑祭コンサートで青フィルがどのような曲を演奏してきたかを、1991～2006 年の 15 年間に焦点を当てて振り返ります。

### 最多登場はシュトラウス 2 世

過去 15 年間に演奏した作曲家はのべ 19 人。その中で最も多く登場したのがヨハン・シュトラウス 2 世で、7 回です。(表 1)

2003 年には『ジプシー男爵』序曲と『南国のばら』を同時に取り上げるなど、華やかで親しみやすいシュトラウス 2 世の音楽は外苑祭コンサートの定番といってもよいでしょう。

これに続くのが、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、ワーグナーで、それぞれのべ 4 回となっています。

第 3 集団としてジョン・ウィリアムズとエルガーがそれぞれのべ 3 回取り上げられています。映画音楽の巨匠として名高いウィリアムズは、『E.T のテーマ』と組曲『ハリー・ポッターと賢者の石』より「ハリーの不思議な世界」が演奏され、イギリス楽壇最大の作曲家の一人であるエルガーは、3 回とも代表作『威風堂々』第 1 番とともに登場しています。

のべ 2 回取り上げられたのは、ヴェルディ、シベリウス、ビゼー、ブラームス、ロッシーニの 5 人です。

ヴェルディが『運命の力』序曲と『アイダ』より「大行進曲」で登場した以外は、シベリウスが交響詩『フィンランディア』、ビゼーが『アルルの女』組曲より「ファランドール」、ブラームスが『大学祝典序曲』、ロッシーニが『セビリアの理髪師』序曲と演奏曲目が一定しています。いずれも、青フィルにとって欠かすことのできない作曲家であり、作品であるといえるかもしれません。

1 回だけの登場は、シューベルト、ショスタコーヴィチ、スメタナ、ニコライ、久石譲、ボロディン、マイアベーア、モーツァルトです。

いずれも独特の魅力と味わいを備えた作曲家だけに、来年以降の外苑祭コンサートで取り上げられる可能性を秘めているといえるでしょう。

作曲家	回数
シュトラウス 2 世	7
チャイコフスキー	4
ドヴォルザーク	4
ワーグナー	4
ウィリアムズ	3
エルガー	3
ヴェルディ	2
シベリウス	2
ビゼー	2
ブラームス	2
ロッシーニ	2
シューベルト	1
ショスタコーヴィチ	1
スメタナ	1
ニコライ	1
久石譲	1
ボロディン	1
マイアベーア	1
モーツァルト	1

(表 1) 作曲家の登場回数

外苑祭コンサートの記録については、下記の青フィル公認サイトでもご覧いただけます。

URL : <http://aoyamaphi1harmonic.hp.infoseek.co.jp/index.html>

9シーズンで4回演奏された『ニュルンベルクのマイスタージンガー』

青フィルは過去15回の外苑祭コンサートでのべ43曲を演奏しました。(表2)

その中で最も登場したのがワーグナーの『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕への前奏曲で、1991年から1999年までの9シーズンに4回演奏されました。

一方、登場回数が最多だったシュトラウス2世は6曲が取り上げられているほか、1回だけながら、スメタナの連作交響詩『わが祖国』より「ブラニーク」や、マイアベーアの『預言者』より「戴冠式行進曲」といった、一般的に演奏される機会が少ない傾向にある作品も取り上げられています。

こうした選曲は、演奏曲目を積極的に広げようとする青フィルの姿勢の反映といえるかもしれません。

作曲家	曲目	回数	演奏年度			
ワーグナー	『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕への前奏曲	4	1991	1993	1995	1999
エルガー	威風堂々第1番	3	1994	1998	2001	
ウィリアムズ	E.Tのテーマ	2	1998	2002		
シベリウス	交響詩『フィンランディア』	2	1996	2000		
シュトラウス2世	皇帝円舞曲	2	1991	1997		
チャイコフスキー	『眠れる森の美女』よりワルツ	2	1999	2003		
ドヴォルザーク	序曲『謝肉祭』	2	2001	2004		
ピゼー	『アルルの女』組曲より「ファランドール」	2	2000	2006		
ブラームス	大学祝典序曲	2	2002	2005		
ロシーニ	『セビリアの理髪師』序曲	2	1992	1994		
ウィリアムズ	組曲『ハリー・ポッターと賢者の石』より「ハリーの不思議な世界」	1	2005			
ヴェルディ	『運命の力』序曲	1	1997			
ヴェルディ	『アイダ』より大行進曲	1	2002			
シューベルト	『ロザムンテ』序曲	1	1995			
シュトラウス2世	ポルカ『狩り』	1	1993			
シュトラウス2世	美しく青きドナウ	1	1994			
シュトラウス2世	芸術家の生涯	1	1998			
シュトラウス2世	『ジプシー男爵』序曲	1	2003			
シュトラウス2世	南国のばら	1	2003			
ショスタコーヴィチ	『祝典序曲』	1	2004			
スメタナ	連作交響詩『わが祖国』より「ブラニーク」	1	1992			
チャイコフスキー	バレエ組曲『くるみ割り人形』より「花のワルツ」	1	2005			
チャイコフスキー	スラヴ行進曲	1	2006			
ドヴォルザーク	スラヴ舞曲第4番	1	2000			
ドヴォルザーク	スラヴ舞曲第1番	1	2001			
ニコライ	『ウインザーの陽気な女房たち』序曲	1	1996			
久石譲	映画『もののけ姫』より「アシタカせっ記」	1	2004			
ボロディン	歌劇『イーゴリ公』序曲	1	2006			
マイアベーア	『預言者』より戴冠式行進曲	1	1999			
モーツァルト	『魔笛』序曲	1	1993			

(表2)演奏曲目の作曲家別回数